

関東同窓会幹事会の報告

上原 昇（2 組、関東同窓会 65 期代表幹事）

日中は初夏を思わせるような天気、4 月 21 日（月）、18 時 30 分から関東同窓会幹事会が日本教育会館（千代田区一ツ橋）で開催されました。

今年度最初の幹事会に、65 期からは丸山暢久君（4 組）と筆者（上原）が出席しました。今回は年度替わりのタイミングで、議題は 24 年度の活動結果報告と 25 年度の計画が主となります。我々 65 期も含め、これまで同窓会の中核を構成していた世代が引退していくのに対し、90 期代以降の若手世代の同窓会会員登録数が著しく減っています。

同窓会の持続性（サステナビリティ）が問われている現状報告がなされました。

6 月 28 日（土）には、第 64 回関東同窓会総会が如水会館で開催されます。

今回の実行委員は 77 期を筆頭に 97 期までの 5 年おきの皆さんになります。

総会での講演は 77 期の医師中村幸夫さんによる「細胞培養の歴史と医学医療への貢献」が予定されています。

アトラクションは同じく 77 期のミュージシャン須藤英樹さんと仲間たちによる J-POP 演奏会なるということです。詳細は 6 月上旬に配布予定の会報をご覧ください。関心のある同期諸氏は奮って参加してください。

総会では任期満了になる関博明副会長（72 期）と平林一央幹事長（75 期）が顧問に就任。新幹事長候補には金井一正副幹事長（76 期）に交代することが報告されました。

特に関さんは私が会長を務めていた 1 年目、幹事長の T さんが仕事の都合で退任した際に、幹事長職を快く引き受けてくれたことを感謝の気持ちで思い出します。

平林さんも、各種会議の効率化やイベント経費の削減に力を発揮してくれました。

お二人とも長い間、お疲れ様でした。



（2025 年 4 月 22 日記）

以上

新緑の古城の門